



悪役令息

の俺が

王子たちに

夜這い

されてどうする

# 第一王子・リオン

ながら、お漏らしをするのをしこしこ。

先っぽを指でえぐられてたまらず「んふ、ふうう・・・！」と射精。  
手についた白濁の液体を、ねっとり舐めるのを見せつけられる羞恥  
心たるや。

いったばかりなのにかまわず、王子の固いので擦りあげられ濡れた股  
がぐちやぐちやに。

快感に目を眩ませながらも「リ、リオン様あ、どしてえ・・・」と疑  
問を口に。

「ふふ、知らないふりをしちゃって、ジルは本当にいけない子だな。  
彼女をいじめるのをやめたということは、私たち王子の愛を受けいれ  
るとのメッセージだろ？」

## 第二王子・ダニール

「くく、みつともなく必死に腰をふって、かわいいやつめ。一生、城に閉じこめて飼って愛ででやりたくなるな・・・」

「ああ、ああ、んあああ！飼って、くだしや、おう、んふう！黒、おちんち、見てるだけ、でえ、はひいん、も、もお、らめええ！」

息を飲んだまま、声をかけずノックをせずに退散。

廊下を歩きながら「ダニーって第二王子だよな！」とあらためて愕然としつつ、胸が躍って。

どうやらあの従者にお熱のようで、いやはやこれは朗報。  
五人いる王子でも色黒ゴリマツチヨのダニーは厄介な強敵だと思っ  
いたから。

# 第三王子第四王子・ルーとロー

あげるよ」とおっぱいをふるふる。

耐えられず揉みこんだなら「はあう、んふ、いい、いいよお！」と淫らに悶えて「ああん、固くなったあ！すっご、ぬるぬるう！」とおっぱいでぐちよぐちよ、あられもなく腰をふりふり。

さすが双子とあり「んくううう！」「はひいいい！」と同時に絶頂へ。

一方で俺はイけずに、美女二人と乱交している錯覚に酔いしれながらも、複雑な心境に。

心の整理がつかないまま、起きあがったルーが自分と俺のを握りこみ、ローはすこしし体を引き、勢いよく腰を叩きつけばーん！じゅぶううう！

そう、あくまで二人は俺を抱かずに、双子の淫靡な近親相姦ショーを

# 第五王子・シオンヌ



たく、巻きこみたくなって。

「ほかの王子は、父親を人質にとるような真似をしなかったのに」と  
歯噛みしつつ、おそろおそろ目を開ける。

身がまえたとはいえ、現実の光景の破壊力よ。

演技なのか、本気なのか、赤ら顔で目を細めて切羽詰まった顔をして、  
一心に腰をふり「ん、ふう、は、はあ・・・」と息を切らしつつ、か  
細い喘ぎを漏らす。

おもちゃをいじるように小さい指で乳首つまみ揉んでいるのが、まあ  
目に毒すぎて。

俺が犯されているはずが、美少年が中年親父に犯されているような痴  
態。

??  
??  
??  
??  
??  
?  
??  
??

ゆきい、だいしゆきい！はひい、ひいん、んくうう！や、やあん、エツチい、せんしえ、指、エツチしゆぎい！やら、やらあ、奥、そんな奥うう、せんせ、せんせえ、らめええ！」

乳首をつねられて、三本も指を埋められ強く摩擦されて「あひいいい！」と恥ずかしげもなく鳴いて空イキを。

初体験でないはずが、視界が歪むほど目が眩み、息も絶え絶え。

また力なく先生に抱きつこうとしたが、股間に響く先生の巨根の武者震い。

先生の情熱的な求めに応じたくありつつ、俺にしる体の奥が疼いて耐えられず「は、はあ、せんしえ、俺で、気もちよく、なつてえ……」と腰を落としていく。

